

第2回石ひろい大会

本町防災ひろばの中にはたくさんの石があります。この石を取り除いて遊びやすくするために、第2回石ひろい大会を行います。これは8月4日に行った石ひろい大会の続きです。前回は100名の方にご参加をいただき、トラック1台分の砂利を集めることができました。やってみると以外に楽しいという感想も聞かれました。今回もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。

●第2回石ひろい大会

日時：11月10日（土）午後1時～

サバイバル・ワンポイント講座 その8

テントをつくる②

●●●● ドームテント ●●●●

図1：用意するもの
5.4mの竹

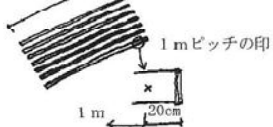


図2



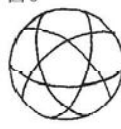
図3



図4

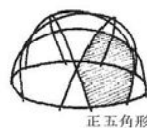


図6



上から見ると

図5



正五角形

今回ご紹介するのは、竹でつくるドーム型テントです。前回お知らせした三角テントは丸太などの長い材料が必要ですが、そんな材料が手に入らない場合にはドーム型のテントがお勧めです。防災まちづくり祭では竹を割った材料が手に入りましたので、竹の弾力性を生かしたドームとしました。

直径3mほどのドームをつくるのに用意するものは、長さ5.4mの竹が7本と麻縄などです（図1）。長い竹がない場合は継ぎ足してもけっこうです。まず竹には1m間隔で印を付けておきます。端は20cmくらいあけておいてください。

まず、2本の竹を使って輪を作ります（図2）。竹と竹はしっかりと結んでください。隣り合った印の所に竹を2本立てて結びます（図3）。このとき、印と印が合うようにしてください。2本の竹を交差させ、印が合うように正三角形を作り、結びます。そのまま交差させた竹を曲げて、対角線の印に合わせ結ぶ（図4）。同じ要領で、順番に2本づつ三角形を作りながら結んでいきます。この時、三角形の隣に正五角形ができます（図5）。頂点にも正五角形ができます。それぞれの交差点をすべて印が合うように結んでいきます。これで骨組みはできあがりです。

このドームという形式は、最も少ない部材で大きな空間を覆うことができる構造です。写真のドームも3cm角ほどの竹材でできています。1本ではグニャグニャの竹もこのように編むと丈夫になります。これにブルーシートをかけ、風で飛ばないようにしばればテントの出来上がりです。（エコライン 小野加瑞輝）



事故にびっくり

防災ひろばでちょっと残念なことがありました。遊びに来ていた中学生が敷地の中の擁壁から自転車で落ちてしまったのです。幸い大きなケガはなかったのですが安心しました。本町防災ひろばの会では、この事故を受けて、安全対策として擁壁の上に低木を植えることにしました。

ちょっとうれしい話

子供たちが、ひろばで自主的に石ひろいを行います。サッカーをしたいので砂利をなくしたいとのこと。自分達で問題をを見つけ、解決していく力を持った子供達を見て、頼もしく思いました。会でもお手伝いしたいということで第2回石ひろい大会を企画しました。

本町防災ひろば

3つの素案でアンケート

防災まちづくりの会も協働で

本町防災ひろばの会では、防災ひろばの本格利用の検討を行っています。これまで参加者のいろいろな希望をとりまとめたり、事例見学でいろいろな公園の実例を見たり、広場の目標づくりや役割の確認をしてきました。そしていよいよ、本格利用の検討に着手しました。

本格利用の検討にあたっては、より広く意見を求めるために、防災まちづくりの会も本町防災ひろばの会に参加して、協働で作業を行っています。

3つの素案

これまでの検討では、公園についてたくさんの希望が出されました。そして話し合いを進め

ていくうちに、いくつかの代表的な案が出されました。会では、今は、1つの案に絞り込む段階ではなく、もっと広くいろいろな方のご意見を伺いたいと考えています。そこで代表的な案について、3つの素案を作ることにしました。この3つの素案は、その中のどれかを選択するという案ではなく、案の比較のための案です。3つの素案については、このニュースに折りこんでいる別紙をご覧ください。

ご意見を募集

この3つの素案をもとに、地域の皆さんのご意見をお伺いいたします。検討にはなかなか参加できない方も、アンケートでご意見やご希望を、本町防災ひろばの会に届けていただきたいと思います。会では、皆さんのご意見を参考にしながら案をとりまとめます。

今年度中に区長に提案

本町防災ひろばの会では、とりまとめた案をもとに、できれば来年早々には、計画案を皆さんにお示しして再度ご意見を伺いたいと考えています。そして、その結果を受けて、3月までに豊島区長に防災ひろばの計画案を提案します。

豊島区では、本町防災ひろばの会の案をもとに、来年度基本設計を行い、平成15年度には実施設計、平成16年度には工事を行う予定です。



つれづれに一言
九月十一日にニューヨークの世界貿易センタービルがテロによって破壊された。アメリカは「新しい戦争」「テロ撲滅のための正義の戦争」だと言って報復が始まった。日本政府はアメリカへの全面的支援を表明し、支援物資を運ぶのにも自衛隊機を使って派遣した。安全だと言うなら何故民間機を使わないのだろう。
その後、アメリカの報復攻撃と時間を合わせて、何者かによる炭疽菌を使ったバイオテロが行われ、アメリカは新たな恐怖と戦争に突入した。
テロも戦争も許せない。アフガンの子供たちのあの悲しい月に胸が痛む。「法と理性による解決を」「人間の英知を」と叫びたい。（青山静可）